

## グループ内コミュニケーション支援システムの提案

大谷 紀子 研究室  
0232059 川手 武

指導教員  
承認印

### 1. 研究の背景と目的

現在パーソナルコンピュータ（以下 PC）には様々な機能やシステムが存在している。インターネットを介し様々な情報を手に入れることができ、メールやチャットにより新たなコミュニケーションが生まれ、新たな生活習慣が生まれている。また、業務的な面でもデータ管理から企画提案などあらゆる分野でPCは使用されている。PCに保存された様々な情報は、様々な場所で、用途に合わせて共有フォルダやドライブ、コミュニティサイトなどにより共有化が図られている。

しかし、既存のシステムやツールは様々な面で使用されるために独立して存在している。よって、目的に合わせて様々な機能を使用し作業する場合、機能の一連性に欠けているのも事実である。

本研究では上記の背景をもとに、コミュニケーションの効率化、円滑化することを目的とし、グループ内コミュニケーション支援システムを提案する。提案システムを構築し、評価実験により、有効性を検証する。

### 2. グループ内コミュニケーション支援システム

本システムは時間的、空間的に制約がかかるリアル世界を前提に、Web ページ上でミーティングや決定事項などの諸連絡、ファイルアップをグループ内で一元的に管理、実行することを目的としたシステムである。下記6つのコミュニケーションツールを機能として実装した。

機能：「メール」、「BBS」、「チャット」、「カレンダー」、「アップローダー」、「認証ページ」

対象は、友人間や研究室などの既存の小規模なグループとする。また、ユーザ間での一体感を生み出すために、1つの画面上で全ての機能の実行を可能にした[1]。実行画面例を図1に示す。

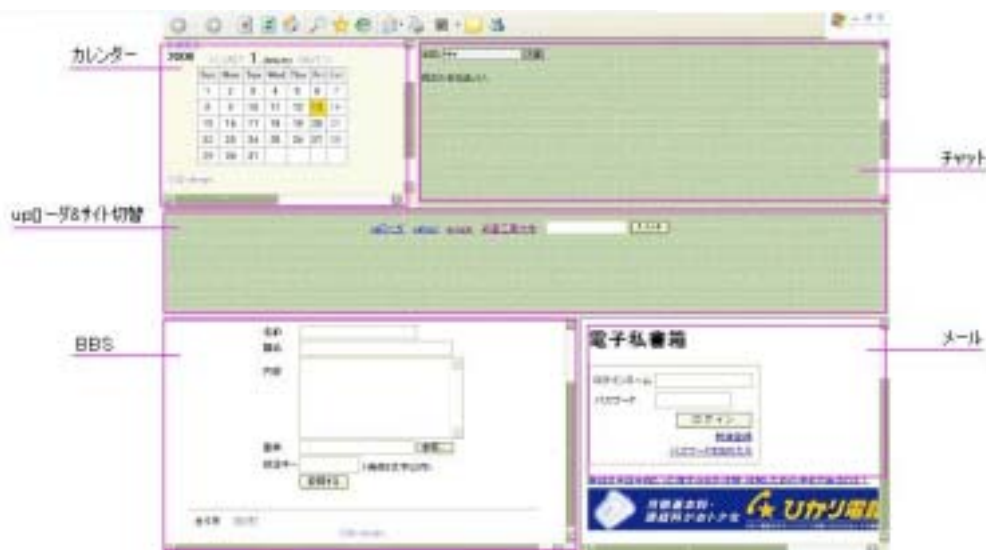


図1：実行画面例

### 3. 事前調査

20代の47人の男女を対象として、PCの使用頻度と目的、コミュニケーション方法に関するアンケートを行った。設問と結果を以下に示す。

設問 複数人との連絡手段やコミュニケーションは何によって行うか頻度順に3つ示せ。

結果 一番目には【直接会う】 45.7%、【メール】 41.3%となり、ほぼ二極化。

設問 友人間だけで情報を共有できるシステムがあれば使用したいか。

結果 【はい】 52.2%、【いいえ】 45.7%、こちらもほぼ二極化。

【いいえ】の理由 「わずらわしい、めんどくさい」「必要性を感じない」など。

上記の設問で、【はい】と回答し、かつ【メール】と回答した人の割合は55%となり、【いいえ】と回答し、かつ【直接会う】と回答した人の割合は66.6%となった。

上記の結果により、皆が一様に同じ意識を持っているわけではなく、PCや情報共有システムには消極的であり興味を示さない人間とPCや情報共有システムを積極的に受け入れる人間とが存在することが推察される。

### 4. 評価実験と結果

事前調査の結果を踏まえ、システムの使用に対し【はい】と答えた人間のみで構成される4人のグループを被験者として2つの評価実験を行い、アンケートを取った。

実験1：各機能を1回以上自由に使用する。

実験2：1つのテーマ(ex.卒業旅行について)についてのミーティングをする。

アンケート結果を表1に示す。

表1：実験結果(10段階評価 最高：10 最低：1)

	被験者1	被験者2	被験者3	被験者4
見やすさ	6	4	5	4
サイトの必要性	5	4	4	4
提案への興味や将来性	8	7	8	7

コメントとして「物足りない、もう少し何かが欲しい」「既存のシステムやサイトで充分、あまり必要がない」「個性がない」「もう少し使い勝手がよければ価値はあると思う」などの意見が挙げられた。

### 5. 考察

完成度の低さが個性の欠如、物足りなさを助長している部分にあることは否定できない。加えて上記の評価により、本システムの必要性を求めるのは困難である。また、役割や目的が異なっても類似サイトやシステムは既存しているため、差別化の面でも問題はあある。しかしながら、本提案に興味を示している人がいるというアンケート結果も得られている。従って、本提案自体は社会的ニーズから決して外れているものではないが、現段階の完成度で本システムの必要性を証明するのは非常に困難である。

### 参考文献

[1]小長谷武志, 大園忠親, 伊藤孝行, 新谷虎松, “情報発信と情報交換の統合に基づくWeb情報共有システム Big Black Board の実装”, 第19回人工知能学会全国大会論文集, 1C2-01 (2005).